

ほうりんざん しょうじょうじ りんざいしゅうみやうしんじはいつとうち
寶林山 正定寺 (臨濟宗妙心寺派一等地)

室町時代にこの地域を治めていた春山源右エ門が、一五二三(大永三年)に赤木村中津留にお堂を建立して、鎌倉の建長寺より利翁益公和尚を開山としてお迎えしたのが正定寺です。

その後、正定寺は仁田原村細川内古屋敷に移転して本堂と庫裡が再建されました。一六九一(元禄四年)には、大守公毛利伊勢守より賜った現在地に再移転して、守望の寺として現在に至ります。

往来不思議と云われる百六十四段の石段を登りつめた静寂の中に、幾世代にも渡る檀信徒の篤い信心により支えられている禅寺は、やがて五百年を迎えます。

現存の本堂は一八八七(明治二十年)に建立されたものです。

正定寺開山

利翁益公禪師

延徳二年(一四九〇) 阿州(四国徳島)の産
大永三年(一五二三)に晋山
天正七年(一五七九)十月十六日九十歳にて遷化
墓所は正定寺

正定寺開基

春山源右エ門

俗に赤木殿と称す
天正七年(一五七九)十月五日 赤木村中津留にて寂
戒名は正定寺殿涌嶽泉公大禅定門
墓所は正定寺(赤木中津留より移転)

第二世

功道慧勲和尚

奥州(東北地方)の産
天正八年(一五八〇)に晋山
赤木村より仁田原村細川内古屋敷に本堂・庫裡を再建
天正十一年(一五八三)に遷化
墓所は不明

第三世

警岩玄策和尚

日州(宮崎県)の産
天正十三年(一五八五)火災により正定寺焼尽
寛文八年(一六六八)に晋山
寛文十二年(一六七二)古屋敷に正定寺本堂を再建
元禄五年(一六九二)十月二十八日に遷化
墓所は正定寺

第四世

松州慈貞和尚

出生不詳 瑞祥寺（本匠因尾）より拝請
貞享元年（一六八四）に晋山
貞享三年（一六八六）古屋敷に庫裡を再建
同年退山して蒲江浦の東光寺第七世へ転錫
享保二年（一七一七）十月二十二日東光寺にて遷化
墓所は東光寺

第五世中興開山

活門玄龍（祖龍）大和尚

府内（大分市）の産
貞享四年（一六八七）に晋山
佐伯藩主毛利伊勢守より東西二十五間 南北十四間の現在地を賜る
元禄元年（一六八七）釈迦涅槃図を新添
元禄四年（一六九一）古屋敷の古材を以て庫裡を再建
元禄八年（一六九五）本堂を再建
同年退山して城下の養賢寺第八世へ転錫
元禄十五年（一七〇二）六月三十日養賢寺にて遷化
墓所は正定寺と養賢寺

第六世

乾堂全壽大和尚

府内（大分市植田小原）の産
元禄九年（一六九六）に晋山
元禄十二年（一六九九）退山して城下の養賢寺第九世へ転錫
弁財天堂を於流山滝口に建立
寛保二年（一七四二）十二月三十一日養賢寺にて遷化
墓所は養賢寺

第七世

石随知門（石髓甫韶）大和尚

赤木村（直川赤木字神内）の産
活門和尚について得度・元禄十五年（一七〇二）に晋山
宝永三年（一七〇六）退山して奥州宮床・覚照寺（伊達御廟）へ転錫
元文五年（一七四〇）夢庵如幻和尚の法嗣にて松島瑞巖寺第一〇六世
延享元年（一七四四）八月二十日覚照寺にて遷化
墓所は覚照寺

第八世

寛堂崇廣和尚

府内（大分市植田）の産
宝永三年（一七〇六）に晋山
享保二年（一七一七）北面堂屋敷に稻荷堂建立
元文三年（一七三八）五月十四日に遷化
墓所は正定寺

第九世

寂水志堪和尚

佐伯切畑（弥生字切畑 近藤家）の産
元文四年（一七三九）に晋山
延享二年（一七四五）鐘楼門及び鶏龜地蔵を建立
宝暦二年（一七五二）六月十二日に遷化
墓所は正定寺

第十世

眞鏡矩圓和尚

佐伯塩月（佐伯市下堅田塩月）の産
宝暦三年（一七五三）に晋山
宝暦五年（一七五五）十二月十二日に遷化
墓所は正定寺

第十一世

月山全珠大和尚

佐伯下堅田（佐伯市下堅田泥谷）の産
宝暦五年（一七五五）養賢寺より看司として来山
宝暦七年（一七五七）に帰院する養賢寺第十二世
文化二年（一八〇五）一月十三日養賢寺にて遷化
墓所は養賢寺

第十二世

武公祖俊和尚

佐伯片上（佐伯市大入島片上）の産
宝暦七年（一七五七）に晋山
宝暦十一年（一七六一）に遷化
墓所は不明

第十三世再中興開山

透隣祖寔大和尚

佐伯入津村竹野浦（蒲江字竹野浦河内 阿部家）の産
宝暦十二年（一七六二）に晋山・
第五世活門和尚にて剃髪・第六世乾堂和尚にて命名
宝暦十二年（一七六二）庫裡再建
宝暦十三年（一七六三）弁天堂再建
安永九年（一七八〇）本堂再建
天明八年（一七八八）退山して採薬山醫王寺（仁田原上の地）に隠居
寛政十年（一七九八）二月二十日に遷化
墓所は正定寺

第十四世

恩溪楚澤和尚

仁田原村細川内（直川仁田原字細川内 島田家）の産
寛政十年（一七九八）に晋山
享和元年（一八〇二）十一月五日に遷化
墓所は正定寺

第十五世

規山古範（元密）和尚

横川村黒岩（直川横川字黒岩 小野家）の産
享和元年（一八〇二）に晋山
文化三年（一八〇六）八月十五日に遷化
墓所は正定寺

第十六世

珍宗禪味和尚

佐伯色利浦（米入津字色利 高木家）の産
洞明寺第五世梁門和尚にて得度
文化六年（一八〇九）に晋山
文化九年（一八一二）百姓一揆
文化十二年（一八一五）善光寺如来安置
天保七年（一八三七）妙心寺春叢和尚を請て授戒会嚴修
天保十年（一八三九）退山して常得山慈眼庵（仁田原岸ノ上）に隠居
嘉永元年（一八四八）五月十六日に遷化
墓所は正定寺

第十七世

雄峯祖英和尚

佐伯下野材（佐伯市鶴望）の産
棠林和尚（美濃国 岐阜郡山）に師事
天保九年（一八三八）に晋山
大般若経六百卷・十六善神を新調
嘉永四年（一八五二）十一月七日に遷化
墓所は正定寺

第十八世

月溪祖梅（古心）和尚

佐伯色利浦（米入津字色利 高木家）の産
嘉永五年（一八五二）に晋山
参道に十六羅漢奉納
慶応二年（一八六六）十月二日に遷化
墓所は正定寺

第十九世

東巖周敦和尚

下入津村西野浦（蒲江字西野浦 久寿米木家）の産
天保十一年十二月八日東光寺にて得度
慶応三年（一八六七）に晋山
明治十年（一八七七）養賢寺天慧和尚を請て菩薩会嚴修
明治十六年（一八八三）四月二十八日に遷化
墓所は正定寺

第二十世再々中興開山

鐵山義澄和尚

津久見（津久見市彦の内 宗家）の産
洞明寺第八世康宗和尚にて得度
明治十六年（一八八三）に晋山
明治二十年（一八八七）本堂兼庫裡再建
茶製造・自治婦人会を村民に伝え興す
明治二十八年（一八九五）位牌堂・土蔵・諸堂整備
明治四十五年（一九一二）七月十八日に遷化
墓所は正定寺

第二十一世

千巖義光和尚

津久見西の内（津久見市西の内 岩崎家）の産
 明治三十年四月八日鐵山和尚にて得度
 大正五年（一九一六）不動堂建立
 大正六年（一九一七）に晋山
 大正十四年（一九二五）観音堂・大師堂建立
 昭和十三年（一九三八）鐘楼門再建
 昭和四十四年（一九六九）二月十九日に遷化
 墓所は正定寺

第二十二世

豊嶽義弘和尚

当山の産
 昭和十九年（一九四四）四月八日千巖和尚にて得度
 昭和二十九年（一九五四）に晋山
 昭和五十一年（一九七六）観音堂・位牌堂再建
 昭和五十七年（一九八二）別庫裡落慶
 平成元年（一九八九）七月一日に閑栖
 平成十八年（二〇〇六）六月一日に遷化
 墓所は正定寺

第二十三世

壽山士朗和尚

当山の産
 昭和四十五年（一九七〇）四月八日豊嶽和尚にて得度
 昭和五十七年（一九八二）十一月に晋山
 平成元年（一九八九）住持
 平成二十四年（二〇一二）退山

第二十四世 現住

平成六年（一九九四）十二月八日壽山和尚にて得度
 平成二十四年（二〇一二）晋山

正定寺は山間の檀家と海岸の檀家を有しています。
 農民五千人が命をかけた文化九年（一八一二）一月十二日の佐伯藩百姓一揆は年貢の減免や藩役人の不正を正すものでした。
 一揆の先頭に立って戦った義民の末裔が海岸に住む尾浦村の檀家です。
 境内に咲くツワブキは菩提寺を想う海岸の民が植えたものです。